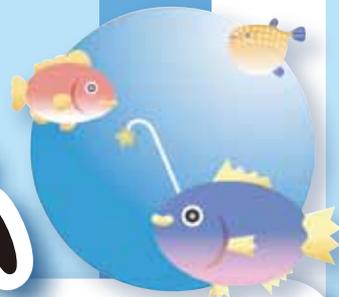


親子で楽しむ Part.3 工作タイム



夏は海やプールで水遊びをする機会が増えますね。
聖書には魚が出てくる話がたくさんあります。今回は魚を作ってみましょう。

1. キラキラフィッシュ



用意するもの

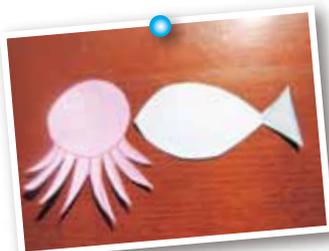
- 画用紙
- スパンコール
- ボンド
- はさみ
- 鉛筆
- 工作用の目
(ぬいぐるみ用として売っています。縫い付けるタイプではなく、貼りつけるもの、)
- マグネット (裏にのりがついている、テープ状のものが便利です)



作りかた



1. 画用紙に魚の形を描く。



2. 形にそって切る。魚の胴体と尻尾の間はあまり細くすると取れてしまうので、少し線から外を切りましょう。



3. ボンドを塗って、スパンコールを貼りつける。



4. このように、全体にスパンコールを貼ってから、目をボンドでつける。



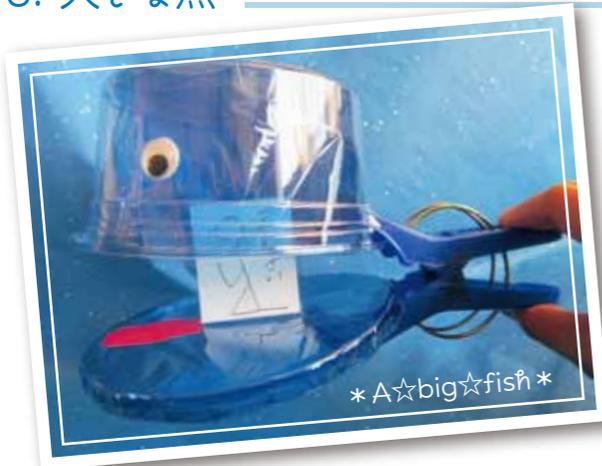
5. 乾いたら裏にマグネットを貼る。



6. タコも同様に作れます。写真は糸でつながったスパンコールを使用したもので、切り端をボンドで固め、抜けないようにしています。このようにして他の海の生物も作れますので、色々チャレンジしてみてください。



3. 大きな魚



作りかた

1. プラスチック容器の底をセロファンにあて、なぞって円を描く。この時ボールペンか油性ペンを使うときれいにセロファンの上に線が描けます。
2. セロファンを線に沿ってはさみで切り、容器の底に内側からテープで貼りつける。
3. 同様に容器の側面にもセロファンを貼る。セロファンの上に容器を横向きにして置き、転がしながら線を引くと、ちょうど良い曲線が描けますが、難しければいくつか長方形に切り出して貼りあわせても良いでしょう。
4. 容器の蓋につけるセロファンは、実際のサイズより大きめに切り、周りに切込みを入れて巻きこんでからテープで留めます。
5. 洗濯バサミの先の一方に蓋を貼りつける。
※蓋が下あご、容器が頭になるように取り付けます。この際、テープを何重にもしないと取れやすいのでお気を付けてください。

「大きな魚」の作業をしながら、子どもにヨナ書のお話しをするのも良いですね



用意するもの

- 透明の蓋付プラスチック容器 (直径15センチくらいのもの。100円ショップでも買えます)
- 大きめの洗濯バサミ
- 青のセロファン ● セロハンテープ
- はさみ ● 油性ペン
- 工作用の目 (ぬいぐるみ用として販売しています。裏が平らな物を使います)
- ボンド ● 赤の折紙 ● 白い紙

6. 容器に洗濯バサミの幅の切込みを入れる。洗濯バサミのもう一方の先にこの切れ込み部分を差し込み、テープで留める。この作業は難しいので、子どもがやったものを大人が補強したほうが良いでしょう。
7. 赤の折紙を舌の形に切り、容器の蓋部分の中央に貼りつけ、容器には目を貼りましょう。どちらもボンドでつけると出来上がりがきれいです。
8. 白い紙にお祈りをしているヨナを描き、中に入れましょう。
9. 魚の口をパクパクして遊ぶこともできますが、こうしてヨナが魚のおなかの中からお祈りをしたことを思い出すためにも使えます。

作りかた (24 ページから)

6. ペットボトルに水に戻したポリマーを 1/3 ほど入れ、縁まで水を入れます。魚も入れて蓋をしっかり締めましょう。小さなお子様には絶対に飲んではいけないことを伝え、蓋をテープで留めるなどして誤飲を防止しましょう。
7. グリッターグルーをたくさん入れた魚は沈み、ポリマーや水を入れたものは浮かびます。ねじの重さにもよりますが、様々な種類を作って観察

魚も入れると、このようになります。

すると夏休みの宿題にもなるかもしれませんね。

8. 磁石を出して、魚に近づけてみましょう。プカプカ浮いている魚が引き寄せられていきます。

9. ルカ 5：1-11 とヨハネ 21：1-6 に、イエス様のみわざでたくさんの魚がとれた話があります。そのように、このペットボトルの魚も磁石の見えない力で、釣ることができます。

子どもと学ぶ聖書の言葉

- ① 聖書の中には色々なおもしろいお話があります。その中にはすごい冒険をした人の話もあります。神さまのことばを伝えるお仕事をしていたヨナさんの話をしましょう。
- ② ヨナさんはある日神さまからこう告げられます。「ニネベに行って、言いなさい。『あなたたちは悪い事ばかりをしている。すぐにやめて、謝らなければ、ニネベの町は滅びる!』」
- ③ ヨナさんは神さまの言うとおりにしたでしょうか。いいえ。だってニネベの町は怖い人や悪い事をする人がいっぱいだったから嫌だったのです。ニネベと反対方向の船に乗りました。すると船は嵐に巻き込まれたのではないですか。大荒れの海の中、溺れそうになったヨナさんはお祈りしました。「神さま、助けてください!」
- ④ すると神さまは大きな魚を遣わして、ヨナさんをガブリと呑み込ませました。ヨナさんは死んでしまっ

たと思いませんか。いいえ、神さまはヨナさんを助けるために大きな魚を送ったのです。魚のおなかに3日いたヨナさんは、息ができたし、ゆっくり神さまに「ごめんなさい」と「ありがとう」を言うことができました。

⑤ 神さまに助けてもらったヨナさんは、今度はちゃんとニネベに行って、神さまのために働きました。

⑥ 私たちも、困った時には、神さまにお祈りしましょう。私たちが愛する神さまは私たちが必ず助けてくださいます。そして、悪い事をした時には、ちゃんと「ごめんなさい」と神さまに謝りましょう。神さまは私たちを赦してください。

- このほかに、魚が出てくる聖書のお話は…
- * 天地創造 (創世記1章20-23節。5日目)
 - * 2匹の魚と5つのパン (マタイ14章15-21節)
 - * 大漁! (ルカ5章4-11節、ヨハネ21章2-14節)
 - * 魚からコイン (マタイ17章24-27節)

